

震災と原発事故から13年、  
福島で、こころの病が多発していた

# 生きて、 生きて、 生きる。

2025年3月9日(日)13:10開場 13:30開演

(上映後)特別講演:「報告 福島第一原発事故・九州への避難者に対するアンケートの分析結果について」

**伊東未来先生** 西南学院大学国際文化学部准教授

論文「福島原発事故区域外避難者はどう生きてきたかー原発賠償京都訴訟原告の陳述書分析からー」(2020)

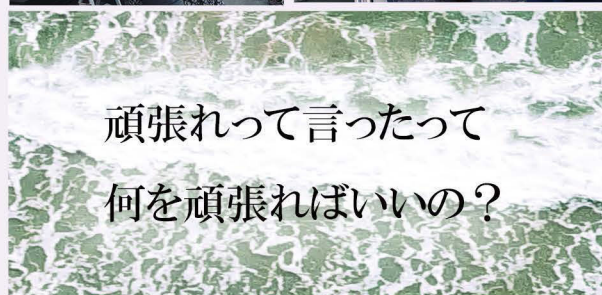
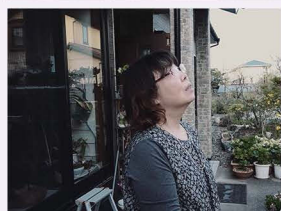
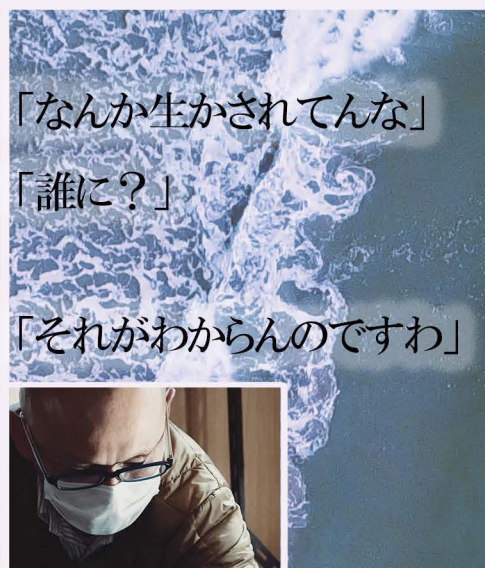
「国内避難民としての福島原発事故避難者の精神的苦痛に関する研究ー苦難の人類学ー」(2020)

場 所:サンレイクかすや多目的ホール(糟屋郡粕屋町駕与丁1-6-1)

入場料:500円(高校生以下無料)

後 援:粕屋町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、久山町、新宮町、粕屋町教育委員会、宇美町教育委員会、篠栗町教育委員会、  
志免町教育委員会、須恵町教育委員会、久山町教育委員会、新宮町教育委員会

グリーンコープ生活協同組合ふくおか、エフコープ生活協同組合、福岡健康友の会、千鳥橋病院附属粕屋診療所、  
粕屋地区人権運動連合会、粕屋民主商工会、福岡県高齢者福祉生活協同組合ふくし生協ぬくもり事業所



ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」と希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジングリスカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

メンタリー。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。

津波で夫が行方不明のままの女性

原発事故で避難中に息子を自死で

失い自殺未遂を繰り返す男性、避難

生活が長引く中、妻が認知症になっ

た夫婦など、患者や利用者たちのお

かれた状況には震災と原発事故の影響

が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSD

を診ていた蟻塚医師は、福島でも

今後、同じケースが増えていくのでは

と考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現

れたと話す女性。「生きていていいんだ

」と希望を持った時に人は泣ける」と

蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子

を失った男性にジングリスカンを一緒

に焼くことを提案。やがてそれぞれの

人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながら

も日々を生きようとする人々と、そ

れを支える医療従事者たちのドキュ

メンタリー。

津波で夫が行方不明のままの女性

原発事故で避難中に息子を自死で

失い自殺未遂を繰り返す男性、避難

生活が長引く中、妻が認知症になっ

た夫婦など、患者や利用者たちのお

かれた状況には震災と原発事故の影響

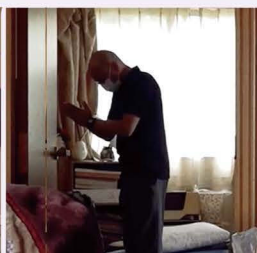
が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSD

を診ていた蟻塚医師は、福島でも

今後、同じケースが増えていくのでは

と考えていた。



「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」

【お問い合わせ】

福島を忘れない3・11 かすや上映会2025実行委員会

電話 092(719)0885 弁護士法人奔流 法律事務所粕屋オフィス